

～米国の緊急利下げについて～

海外時間22日、FRB（米連邦準備制度理事会）は緊急のFOMC（連邦公開市場委員会）を開き、政策金利であるフェデラルファンド金利を0.75%引き下げ、年3.5%にすることを決定しました。これを受けて外国為替市場では、ドルがユーロなどの主要通貨に対して下落したものの、円に対しては上昇しました。

サブプライムローン問題を発端とした世界的景気減速懸念が一段と強まり、週明けの東京株式市場は大幅下落、2年4ヶ月ぶりに13,000円を割り込みました。また、アジアや欧州の主要株式市場も大幅安となり、金融市場は不安定な動きが続きました。こうした不安を緩和するため、FRBは米同時多発テロ後6年4ヶ月ぶりとなる緊急のFOMCでの利下げを決定しました。この発表を受けて、欧州株式市場はおおむね上昇に転じました。連休明けとなる米国株式市場は、ダウ工業株30種平均は、一時、前週末比で460ドル超下落しましたが、その後下げ幅を縮小し、前週末比128ドル11セント安の1万1971ドル19セントで取引を終えました。

外国為替相場では、利下げの影響でドル建て資産の魅力が弱まり、米ドルはユーロをはじめとする主要通貨に対して下落しましたが、一方で、景気の先行き懸念を背景とした円キャリートレードの巻き戻しが緩和すると期待から円に対しては上昇しました。

今後は、米国の景気動向が世界経済に深刻な影響を及ぼすかどうか注目されますが、世界経済の成長率は過去数年に比べ最も低い水準になるものの、米国以外の国については、比較的堅調な成長を維持するものと見ております。金融市場では、短期的には不安定な動きが続くことが予想されるものの、FRBは「環境を引き続き観察しリスクに対応する」としてさらなる利下げの用意がある姿勢を明確にしているほか、景気刺激策の効果も期待されるため、市場は次第に落ち着きを取り戻すものと考えています。

以上

(ご参考) 主要な株価指数、為替レート、長期金利の前日終値との比較

株価指数	1月21日終値	1月22日終値	変化率
NYダウ工業30種	12099.3(注)	11971.19	-1.06%
FT100指数	5578.20	5740.10	2.90%
ドイツDAX	6790.19	6769.47	-0.31%
フランスCAC	4744.45	4842.54	2.07%

(注) 21日の米国市場はキング牧師誕生記念日で休場のため18日の終値を使用

為替レート	1月21日終値	1月22日終値	変化率
ドル/円	105.96	106.43	0.44%
ユーロ/円	153.16	155.72	1.67%

長期金利	1月21日終値	1月22日終値	対比
米国10年国債利回り	3.63	3.44	-0.20
ユーロ10年国債利回り	3.91	3.99	0.08

(出所)ブルームバーグ